

文化財シリーズ第二集

栄町の地蔵・観音

栄町教育委員会

序 文

昨年三月、栄町に存在する石造物調査記録の第一集として「庚申塔」編を刊行しましたが、今回は主として「地蔵」「観音」などを集めて第二集を刊行することができました。

いうまでもなく、石造物は、私たちの祖先が、その生活の中で、悲しみや喜びの中から創造して、現代に伝えてきた文化遺産の一つですが、「水と緑の田園観光都市づくり」をすすめている本町でも、開発の進展にともなって、この種の文化財の消長が気になりますので、千葉県立房総風土記の丘のご協力を得て、分布調査と保護に努力している次第であります。

今回の刊行に当たっても房総風土記の丘、栄町文化財審議委員並びに関係者各位にたいへんお世話になりました。心より敬意と感謝の意を表します。

昭和六十三年三月十五日

栄町教育委員会教育長

坂 本 幸 男

「観世音菩薩」

一口に観音さまといってもその正式な呼称は観世音、光世音、観自在など仏教では訳されている。

今なお一般には観音さま、少し丁寧に呼ぶ場合は観世音菩薩と呼ぶのが普通である。而し普及度の高い般若心経即ち摩訶般若波羅密多心経が観自在菩薩から始まって、それは観世音菩薩のこと、信じて誰も疑はない。

さて仏教でいう観世音菩薩とはどのような仏であろうか。当初中国において観世音と訳したのはこれについての最も重要であり基本的な教典である法華経の中の普門品に「若し無量百千万億の象生ありて諸々の苦悩を受けんに是の観世音菩薩を聞いて一心にその名を称せば観世音は即時にその音声を観じて皆解脱を得しむ」とあるに拠ったのであろうという。またこの普門品によれば観世音菩薩の名号を称せばあらゆる害毒から免れる事ができるとともに観世音菩薩は象生がこれらの苦から免れることが出来ぬ限り自ら菩提を得て仏になることはしないという地蔵菩薩と同様の象生のための誓願をたてられているとある。観世音菩薩が強く日本民族の心をとらえたのは飛鳥時代における聖徳太子以来実に多くの造像がなされ、ことに鎌倉時代初頭には京都の蓮華王院の三十三間堂の一千一体の千手観音が最もよくこのことを現わしている。

観音信仰が広く庶民の間に浸透していった背景には浄土教の発展に伴う阿弥陀信仰のその協待としての観音であること並に観音の三十三化身になぞらへて三十三番の札所の発展によること大であったと考えられる。

三十三番の札所は平安時代後期には西国三十三ヶ所の成立をみ源平合戦に西国へおもむいた関東武人の見聞等もありさらに鎌倉に幕府が開かれるに及んで鎌倉を中心

「地蔵菩薩」

仏教が日本の民衆の心を支配した最も大きなものは仏教の因縁観から発した六道輪廻の思想であろう、すなわちあらゆる衆生は地獄、餓鬼、畜生、修羅、人界の六道の輪廻から離脱できないそれぞれの業を背負って居るものであるこの六道輪廻の苦から仏道を生じて離脱せしめて菩提に入らしめるために地蔵は六変化を以てそれぞれの六道に臨んで衆生の救済にあたるとする。

地蔵菩薩が六道示顯の六地蔵の姿をして山門あるいは墓地の入口等に造立され寺に詣る者は等しくその姿に接して丹頂衲衣で錫杖を持ち衆生を済度しなければ自ら菩提をとらぬとの慈悲相に心をうたれるのである。

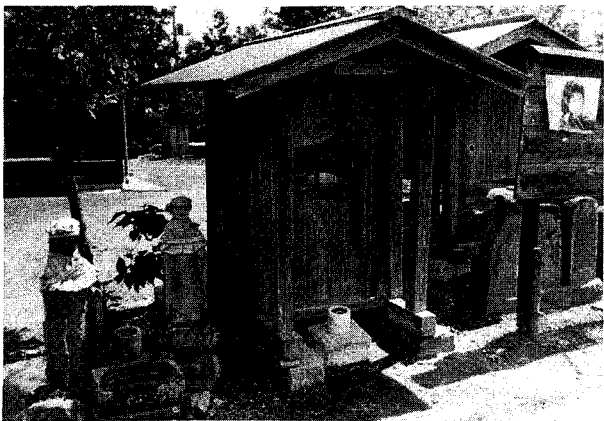
又地蔵さん程苗字の多い神様は外にはない。賽の河原の地蔵に始まり子育て、水子、治病、延命、犠牲者供養の地蔵尊水難除、蛇除、とげ抜き等数へ上げれば数拾種に及ぶであろう。

地蔵

布鎌長門谷石仏群



布鎌中谷石仏群



とする新仏教の興隆が西国札所に対して坂東札所の成立への刺戟となったことも考へられ鎌倉の松本坊を一番とし安房の邦古寺を三十三番とする形が鎌倉前期には成立をみたと思われる。

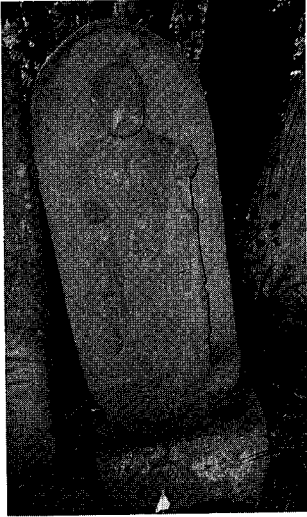
又坂東札所の成立の余勢はやがて室町中期頃には秩父盆地に秩父札所の成立を見西国、坂東、秩父合せて九十九ヶ所の札所は戦国時代の天文五年(1536)には西国坂東秩父百ヶ所巡礼の納札が秩父郡荒川村白久の宝雲寺にあるのでこの頃にはすでに百ヶ所巡礼の風習があったものと考へられる。観音は本来三十三化身して衆生の救済にあたるということから普門品には声聞身や比丘尼身などに姿を変えて表現することが説かれているのである。しかし一般には三十三観音といわれるものはむしろ聖観音の三十三態ともいふべきもので今その名をあげると、楊柳観音・竜頭観音・持経観音・円光観音・遊戯観音・白衣観音・蓮臥観音・滝見観音・施楽観音・魚籃観音・徳王観音・水月観音・一葉観音・青頭観音・威徳観音・延命観音・衆宝観音・岩戸観音・能静観音・阿耨観音・阿磨提観音・葉衣観音・馬郎婦観音・合掌観音・一如観音・不二観音・持蓮観音・瑠璃観音・多羅尊観音・蛤蜊観音・六時観音・普悲観音・灑水観音がそれである。

以上は望月仏教大辞典、美の観音等による。

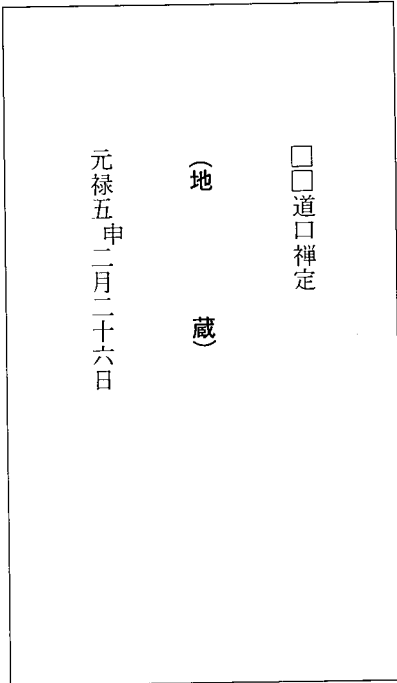
本稿を脱稿するに当りましては審議委員各位には大変御世話になりました中で山本さんには非常にお力添へを頂きました事紙上を借り厚く御礼申し上げます。

伊藤栄常

矢口一宮神社



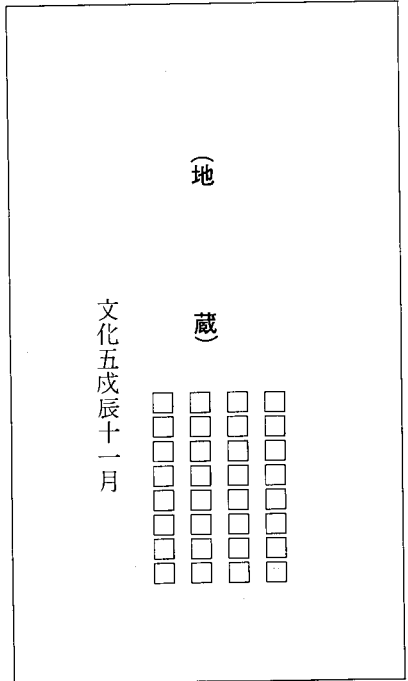
62×30



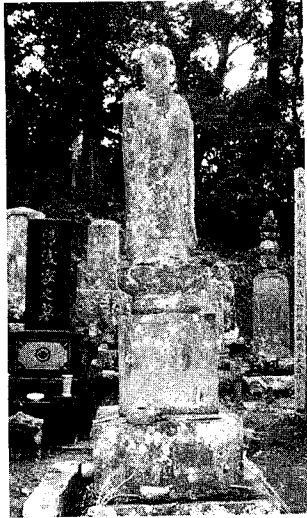
矢口一宮神社



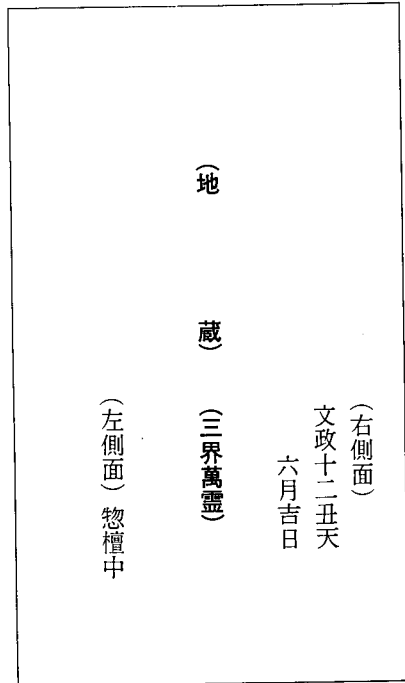
160×37



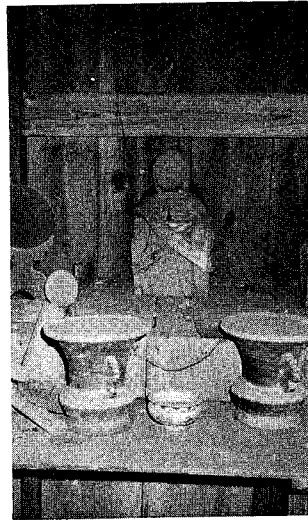
矢口辺田墓地



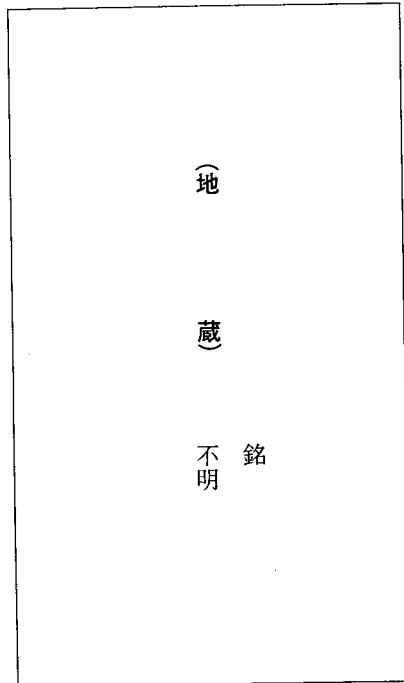
116×30



矢口椎木糸川氏横



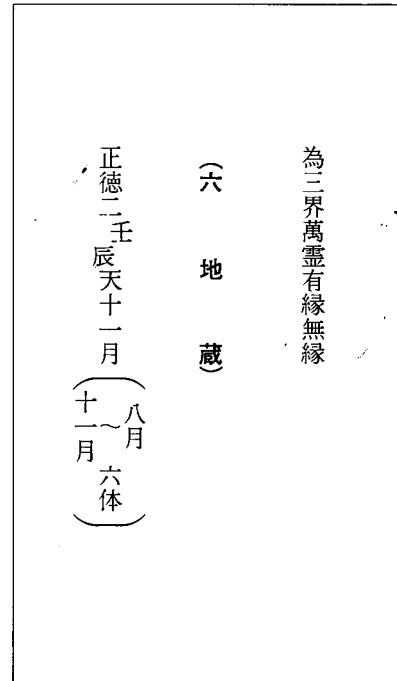
(床板上高) 38×20



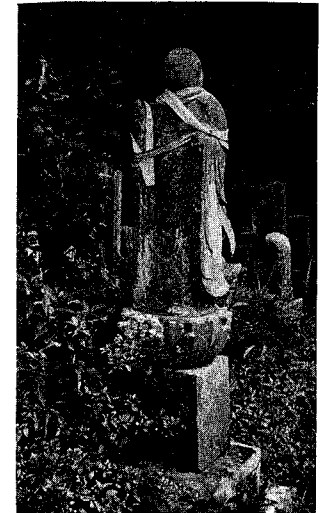
矢口花輪墓地



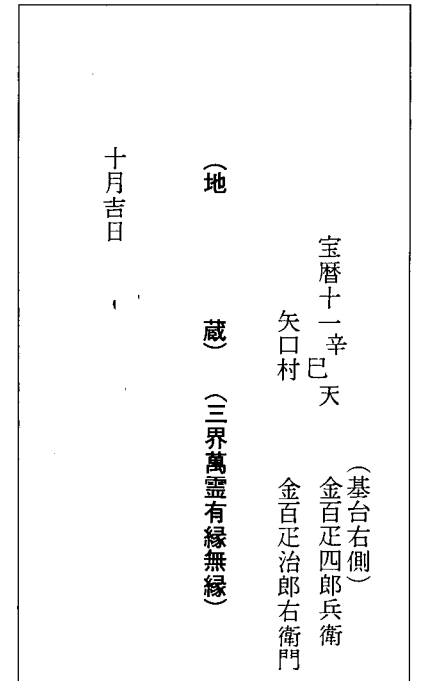
87×40



矢口花輪墓地



110×30



矢口花輪



55×30

奉待庚申諸願成就之處

(青面金剛)(三猿)

享保七壬寅十月吉日同行六人

興津竜昌院



121×34

(右側面)

巖山晴雲居士
圓宝貞融大姉
天徳山
施主 篠田茂兵衛
同嘉左衛門

(地蔵菩薩立像) (三界萬靈)

(左側面) 当院十世代
石工 十里梶谷由之
文化十四丁丑七月
吉祥月立之

矢口辺田墓地



65×27

(六地蔵)

(同形六体)

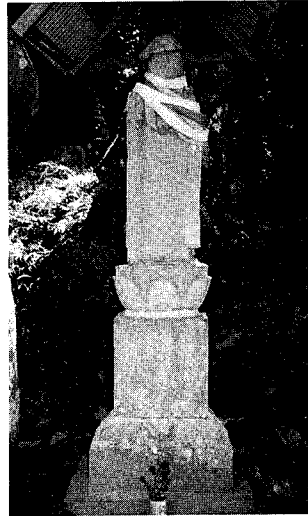
北辺田西寺



62×26

淨嚴禪定門幻青禪童子
 (歸真地 藏)
 龜瀨禪定門元文巳未天八月廿九日

北辺田西寺



100×25

(地 藏)
 (右側)二十九番所
 椎塚又兵衛
 延享元子七月七日
 開窓秀彦信女
 顯室諄光信女
 十一月廿六日
 貞慎□信女
 宝曆七丑三月廿五日

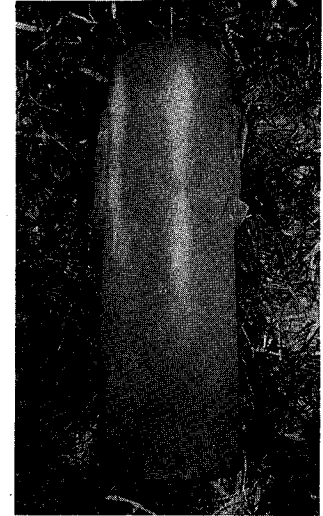
興津水海道



69×23

(今世後生能引導)
 奉造立地藏菩薩尊像
 法界衆生證大菩提
 寬保二亥天十二月十日
 延享五戌辰天仲春吉日
 施主 湯淺儀右衛門

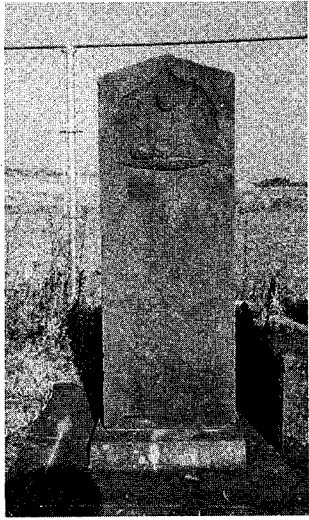
興津青年館



周67 65×30

(円柱六地藏)
 北辺田村□□ 鈴木与五兵衛
 空西入居士
 春造立先妣昇大
 延宝二□□ 吉也敬白

北辺田機場



100×36

(地)

蔵 (三界萬靈場)

□ 香盛童信女

□ 政□□月九日

北辺田機場



105×24

(地)

蔵

(左側) 十九丁
田沼政治郎
鳴崎孝太

(右側)
宮淵丁歩
田倉惣兵衛

三 界 萬 靈

北辺田西寺



64×36

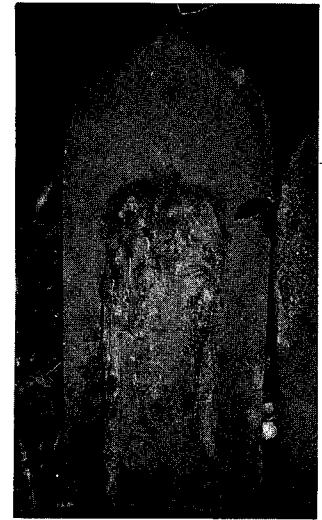
(地)

蔵

元禄十二卯正月朔日

歸元陽哲禪門冥位

北辺田西寺



94×42

(地)

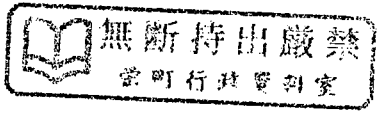
蔵

(左側) 元禄六癸末七月廿一日

(右側) 実峯舜心上座靈位

調査の組織

調査会長	伊藤義一	栄町文化財審議会委員長
調査員	塩田重治	栄町文化財審議会副委員長
調査員	後藤栄亮	栄町文化財審議会委員
調査員	小川守	栄町文化財審議会委員
調査員	長沢成章	栄町文化財審議会委員
調査員	山本正司	栄町文化財審議会委員
調査員	荒井一郎	栄町文化財審議会委員
調査員	長谷川隆政	栄町教育委員会社会教育主事
事務局		栄町教育委員会社会教育課



栄町の地蔵・観音

昭和六十三年三月二十日 印刷
昭和六十三年三月三十一日 発行
文化財シリーズ第二集

編者 栄町文化財審議会

発行 栄町教育委員会

印旛郡栄町安食台一―二

印刷 タイガー企画印刷

